



ちいちいばっば ちいばっば
 雀の学校の先生は
 むちを振り振り ちいばっば

生徒の雀は 輪になって
 お口をそろえて ちいばっば
 まだまだいけない ちいばっば
 も一度一緒に ちいばっば
 ちいちいばっば ちいばっば



1990年代に総合的な学習の時間と生活科が登場した頃、盛んに「雀の学校」はダメだ、「めだかの学校」（♪誰が生徒か先生か…）を目指そうという大号令がかかったことがありました。

確かに、この童謡は戦前の作品（大正10年）であり、「むちを振り振り」という歌詞からも、高圧的・封建的、あるいは暴力的な学校教育の姿をイメージしやすいですから、受け入れられやすい引用であったかもしれません。

しかし、落ち着いて考えてみると、思い込みによる大きな誤解だと分かります。大正10年と言えば、大正デモクラシーの名のもと、自由主義教育運動がもっとも盛んだった時代です。今でも十分に通用するドルトン・プランを導入した成城学園を始め、玉川学園・和光学園・自由学園・文化学院等々、数限りなく改革運動が行われていた時代です。新田次郎の「聖職の碑」に見られる実践重視の教育を志向した教師群もその一例です。つまり、十把一絡げに戦前教育と一括りするの如何なものかという典型でしょう。

また、「むちを振り振り」の一節も、むちとは音楽のタクトのことであり、体罰を意味するものではありません。むしろ、生徒の声を合わせようと悪戦苦闘している様子が伺えて微笑ましいほどです。

ちなみに、この歌は「童謡」と呼ばれるジャンルで「唱歌」ではありません。後者が文部省主導で生まれた官製の歌であるのに対して、前者は鈴木三重吉が提唱して生まれた文化的な運動が結実したものです。

いずれにしても、この「雀の学校」は、今や学校現場では望ましくないイメージが定着しているため、その失地回復、汚名返上、名誉挽回を願って止みません。

ところで、この歌の作者である清水かつらは、後半生を、成増近くの新倉村（現在の和光市）で暮らしています。関東大震災で焼け出され、深川から継母の実家のある新倉村（現和光市下新倉）に身を寄せ、その後、白子村（現和光市白子）に移り住むことになりました。そのため、東武東上線和光市駅前には、彼の代表作である「みどりのそよ風」「靴が鳴る」「しかられて」の歌碑が建っています。



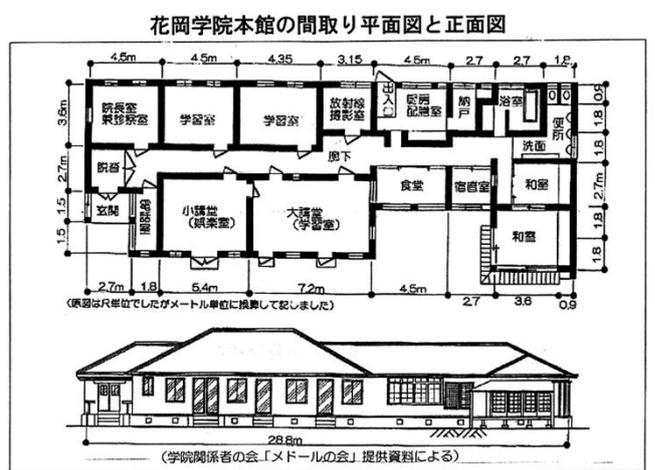
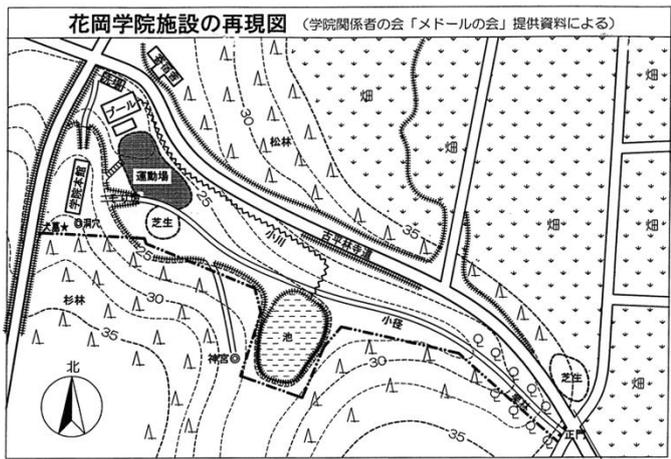
継母というところが少々気になります。じつは、彼が4歳のときに2歳下の弟が亡くなり、その自責の念からか実母は心の病にかかり、離縁されてしまったと言います。その後、父親が再婚をしたことで、彼は継母に育てられたということになります。しかし、どうなのでしょう。実母とは違う寂しさはどうしようもな



かったのではないのでしょうか。「しかられて」で描かれている世界観は、母親のもとを遠く離れて他人の家に奉公へ出された子供の境遇と、自分とを重ね合わせているように思えます。描かれている風景は、白子宿周辺だと言われています。そう思って歌を聞くと、新たに心に沁みるものがあります。

ところで、その彼が1933年（昭和8年）から1943年（昭和18年）の間、花岡学院の講師として通っています。

花岡学院とは、神田の小児科開業医である花岡和雄医師（華岡青洲の甥・良平の孫、隣接する兎月園を開設した花岡知爾氏の兄に当たる人です。）が、長男の忠男のためにペスタロッチ教育を基本理念として設立した、私立の寄宿制尋常小学校です。場所は、ちょうど光が丘の北西に、まるで盲腸のように突き出た部分に当たります。近くの妙安寺（練馬区旭町3-10）から12,000坪を借地して設立しました。戦後はそのままグラントハイツの汚水処理場として接收されたために、不可思議な形で残ったというわけです。



少しでも教育学に触れていれば、誰もが耳にする人物の一人であるペスタロッチの教育実践が、この練馬の地で行われたことは驚異的です。現在でも幼児教育の分野では脈々と受け継がれており、「生活は陶冶する」という有名な言葉を残しています。これは、子供の経験や自発性を重んじ、実物や絵画・模型・写真などを用い、感覚に訴え学習の促進を図る考え方を端的に言い表したもので、生活そのものが人間を発達させるということの意味します。この光が丘の地で始まったことを私たちは大いに誇らしく思うべきでしょう。

サギの池

傾いた松

雪で遊ぶ子ども達と斜めの松の木

サギの池

上運動場

すべり台

大松山

花岡学院 草木絵図

あの花、あそこここに

サギの池

ささやきの小路

三角屋根が付き洒落た寄宿舎

日光浴室の屋根が少し見える

藤棚

湧き水を使ったプール

写真の中の影が右から左なので、「ささやきの小路」の上り方向を撮影している。

ささやきの小路

写真①本館平面図

窓と扉が交互に並んでいる

写真②本館立面図

ここにうっすら日本間の二月堂が写っている

写真③緑の教室

写真④ささやきの小路の西端

写真⑤本館の窓と扉が写っているので本館前で最後の卒業式の写真

国旗掲揚ポールが見える

写真⑥そり坂と本館

写真⑦カメの芝生での円陣

写真⑧「寄宿舎と藤棚とプールと日光浴室」

写真⑨ささやきの小路

図版④ 花岡学院草木絵図(敷地見取り図)

図版⑤ 花岡学院草木絵図(敷地見取り図)

その坂が見える傾いた松

本館の窓と扉が見える

正面そり坂の、右に本館が見える

同じ頭が見えるので上の写真と下の写真は同一の写真

花岡学院最後の卒業式(昭和十七年三月)中央、花岡和雄学院長、右隣、高瀬さん、第三列右から四人目、母、富美子さん

花岡学院寄宿舎(奥左には日光浴室の屋根、手前藤棚とプール)

花岡学院寄宿舎

奥左には日光浴室の屋根、手前藤棚とプール

光が丘公園からなだらかなスロープを下りながら和光市牛房に至る道は、程よい散歩道でもあり、少し気分を変えたいときに、ここら辺りまで足を延ばして、往時を偲ぶのも一興だと思います。



最後に、昭和22年の航空写真から位置関係を確認しておきましょう。 Grant Heights 時代です。



(終)